

近畿のなかもま

No.10

2008.2.25

発行人

金融労連近畿地協
事務局長 阿部正巳

全ての労働者の生活・労働条件の改善を

近畿地協 08春闘学習会

2月16日（土）～17日（日）、京都市「ホテル本龍寺会館」で金融労連近畿地協08春闘学習会が行われ、北陸・中国四国地協の仲間も含め39人がうち女性6人が参加しました。

労働組合は

互助会ではない

自身のホームページで「激しく学ぶ」ことを訴える神戸女子学院大学の石川康宏教授が「08春闘と政治・経済情勢」と題して、かつてなく貧困と格差が拡大している今の政治状況はアメリカが儲けるための強い圧力で進められていることをワーキンググループアの実態なども示しながらわかりやすく解明しました。最後に08春闘での労働組合の役割として「自分たちの組合費を自分たちだけのために使うのなら、それは単なる互助会にすぎない。労働組合がワーキングアに苦しむ全ての労働者の生活の改善に取り組まない限り、自分たちの労働条件も良くならない」ことを忘れてはならない

と強調、聴く者に大きな感銘を与える講演となりました。

引き続き特別報告として、金融労連の組合として組織統合した近畿労きのくに信金支部の仲間から1月の合併後の職場状況が報告され、また4年前から年額20～40万円もの退職年金の減額が強行されている「そな企業年金裁判」への支援の訴えを行なわれました。

職場は怒っている

3つに分かれて行なわれた分教會では、金融リスク商品・不払い残業・メンタルヘルスなどの問題を中心に職場実態が報告され、解決に向けて話し合われました。

金融リスク商品の推進については、「ほとんどのお客さんが損をしているのに金融機関が儲かるから」というだけで推進しているのか」という思いが職場でのアンケート調査でも大半を占めるようになってきており、実態が報告され、休日返上で金融リスク商品の研修や資格取得が求められている仲間や窓口業務と



の両立は無理という仲間の悩みや怒りが出されました。

不払い残業問題については、労働組合のさまざまな取り組みによって一定の改善が進んでいるものの、「昇給がとれない分も時間外手当として支払われることができる」ということができるのを知らないなか、「早出にも時間外手当が支払われることを知らない」とな

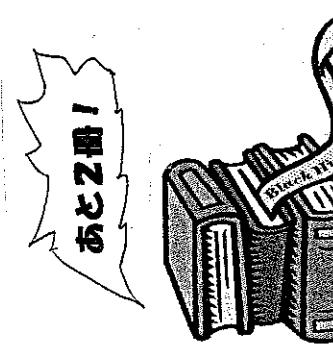
ど労働者の基本的な権利がまだまだ職場で実践されていないことも明らかになりました。

仕事が増えてるのに人が減らされ、おまけに成果主義の導入で職場から「ゆとり」「思いやり」がなくなり「心の病」にかかる仲間が増えている問題で、企業が「ホットライン」など相談体制を形だけ作るようになってしまっていますが、「誰も利用していない」のが実態です。「心の病」の原因となっている長時間過労労働、成果主義、パワーハラスメントなどを改めない限り、ますますメンタル不全は増えうるという意見が数多く出されました。

最底生計費（京都総評と佛教大金澤教授試算）

→モデル	20代男性 賃貸アパート1K住まい	40代夫婦子ども2人 賃貸マンション3DK住まい
食費	41,011	110,020
住居費	41,250	62,500
被服等	7,090	27,935
交通・通信費	12,703	21,920
教養娯楽費	14,995	21,418
最低生計費（税込）	197,779	482,227
月額	2,373,348	5,786,724

○春闘をみんなでたたかう
この学習会では講演・分科会・全体會議を通じて職場の矛盾を多く出されるなかでみんなの生活や職場を良くするために一番困っている仲間悩んでいる仲間を求めてみんなが力を合わせて取り組んでいくことが大切だといふことを改めて確認できました。



- 春闘をみんなでたたかう
この学習会では講演・分科会・全体會議を通じて職場の矛盾を多く出されるなかでみんなの生活や職場を良くするために一番困っている仲間悩んでいる仲間を求めてみんなが力を合わせて取り組んでいくことが大切だといふことを改めて確認できました。
- 二月二十八日 当面の日程
近畿地協春闘統一要求書提出
- 三月五日 民大集会（大阪扇町公園）
- 三月七日～八日 きらやか銀行不当労働行為事件第4回証人審問（山形）
- 三月八日 金融労連第2回組織拡大担当者会議
- 三月八日 東京・南青山会館）
津水都信金合併5周年全員集会（豊中市民会館）
- 三月十二日 個人加盟労組合同準備会（金龍労連本部）
- 三月十八日 金融労連08春闘回答指定日
- 三月二十一日 近畿大阪銀行団体交渉
- 三月二十一日 九条の会おおさかの集い（藤本義一・井上ひさしげ）
- 四月五日 グ対談（大阪中央公会堂）
- 四月十一日 近畿地協常任幹事会（大阪）
- 四月十八日 きらやか銀行不当労働行為事件第5回証人審問（山形）
- 四月十八日 金融労連中央行動

泉州・池田銀行 経営統合の協議開始

持株会社方式で

関西を地盤とする地銀の泉州銀行と池田銀行が2月22日、プレス発表で持株会社設立による経営統合に向けた協議を開始したことを明らかにしました。

池田銀行は最近の市況低迷で外國債やリート不動産投資信託の保有資産の値下りが拡大し、300億円程度の第三者割当増資を三菱UFJフィナンシャルグループが決まっています。

三義じFJ

泉州銀行は、その意向もあって、今回経営統合に向け協議を開始したものと見られています。

池田銀行は大阪の北部と兵庫県を中心に店舗網を有し、泉州銀行は大阪府南部を地盤としています。2007年9月現在の両行の預貸金を合算した新金融持株会社の預金は3兆9661億円、貸出金は3兆955億円となり、全国地銀中17位の規模となります。

【銀行の概要】

	泉州銀行	池田銀行
設立年月	1951年1月	1951年9月
本店	大阪府岸和田市	大阪府池田市
資本金	445億75百万円	493億65百万円
従業員数	1223人	1171人
店舗数(出張所含む)	64ヶ店	75ヶ店
預金残高(07年9月)	1兆7597億円	2兆2064億円
貸出金残高(07年9月)	1兆5729億円	1兆5225億円
預貸率	89.38%	69.00%
2006年度純利益	107億円	60億円

学習会参加者の感想文

●なんだ新聞などで見聞きしている政治経済問題を分かりやすく解説していただき大変良かった。

また組合のあり方として「組合は互助会ではなく手の労働者の為に活動すべき」との言葉に感銘を受けた。

今回参加できて大変良かった。またこのようにお話をうけた。

します。山陰にもう1回参加を待ちています。(米子信金組合さん)

●自分の利益だけを中心と考えるのではなく全ての労働者の利益を考えていくようにするために、こういった場で意見を出し合ってとも思った。今まで政治にはあまり関心がなく学生時代

ほど勉強してない自分と向き合うことができず勉強を反省するきっかけとなつた。

(金生信金組合さん)

●日本の政治・経済はアメリカの権力によって大きく左右されることが多いと感じられた。その影響が貧困や格差にまで悪化改善に向

(金生信金組合さん)

●いつも聞いてもわかりやすく話していく感じだったと思つ。しかもメモするなど見ないのでノートにメモをした。分教会のテーマは事前に周知してもらって資料を持ち込みるようにならうつて思つ。広い立場に立つた各組合の指導を期待する。

(近信労きのくに信金事部・丁さん)

●経団連からアメリカが我々の生活に影響を及ぼしていることがとてもわかつた。もっと交流しよう。

(鳥取信金組合・石さん)

もつなかつており、ますます日本が落ちぶれていく感じを受けた。この改善策が皆さんから出されたか、それが生かされたかどうか次回を期待したい。(滋賀銀行従組さん)

●政治経済情勢について今まで聞いたたじのない語りこぼれもあり大変勉強になつた。ワーキングプアの話は特に興味深く聞けた。皆信・残業・賃の状況など他金融機関の話も聞けて良かった。

(京都北部信金組合・Kさん)

●貧困と格差の問題が本当に深刻になっているのだと痛感した。特に貧困の問題ではワーキングプアの人の話を聞きビックリした。今後、非正規雇用の問題を改善していくがないと大変になるとと思う。

(京都北部信金組合・Sさん)

●いつも聞いてもわかりやすく話していく感じだったと思つ。シマメにメモするなど見ないのでノートにメモをした。分教會のテーマは事前に周知してもらうて資料を持ち込みるようにならうつて思つ。広い立場に立つた各組合の指導を期待する。

(近信労きのくに信金事部・丁さん)

●経団連からアメリカが我々の生活に影響を及ぼしていることがとてもわかつた。もっと交流しよう。

(鳥取信金組合・石さん)

メンタル不全の部下の職場復帰への支援

金子雅臣著

♪今ハラスメントなんでも相談(日本評論社より)

- ① 特別な理由がない限り、元の職場に復帰させる。
- ② 他の部下と同様に待遇し、特別扱いしない。
- ③ 作業内容は元の仕事に比較し単純なものを労働時間に見合った量だけ与える。
- ④ に見合った量だけ与えるが、復職者の心理状態には波があるで、良好な状態、低下的な状態、平均的な状態に区分し、それぞれのレベルに持続時間を総合して回復状況を把握する。
- ⑤ 順調に回復しているように見える場合でも、3ヶ月から6ヶ月後に再発することがある。
- ⑥ 長時間にわたる定期的な通院が必要な者が多いが、通院することはよいことだと支持する。
- ⑦ 医師から処方されている薬を飲むことに対する否定的な発言をしない。
- ⑧ うまくいかないことも多い。自分で背負ひ込まないこと。産業医との連携が重要である。

